

教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所属・職・氏名	兵庫県立芦屋国際中等教育学校 主幹教諭 金川 幾久世	研究チーム名 (日本語教育推進委員会)
-------------	-------------------------------	--------------------------

研究テーマ分類番号 (1)

(1)研究テーマ	
一歩進んだ日本語運用能力習得のための教材開発 ~ 日本語理解が不十分な外国人生徒・帰国生徒が日本語運用能力を身につけ、各教科の授業理解にも役立つ教材の開発研究 ~	
(2)研究経過及び具体的な取組	
準備	外国籍及び帰国枠で入学した新入生全員(60人)に本校作成の「日本語運用能力テスト」を実施することにより、日本語の支援が必要な生徒の実態を把握し、職員の共通理解を深めた。併せて、適切な指導を行うための日本語クラスの「初級・中級・上級、国語クラス移行期のレベルと学習目標」・「クラス分け」・「昇級する場合の基準と時期」・「担当者」の決定を行った。さらに、新入生全員の小学校漢字の習得状況を調査・分析し、国語の教科指導にも反映できるようにした。 授業が軌道に乗った頃より、原則毎月・火曜日に1時間ずつ「日本語オリジナルテキスト作成検討会」を開き、本格的に『中学生の日本語 第3集』の作成に取り組み始めた。まず『第1・2集』の遺漏を調べ、次に『第3集』作成のための年間・月間計画を立てた。そして、テキストの核となる「文型・文法・語彙・トピック項目」及び、構成・書式・登場人物等について検討を開始した。また、毎金曜日に、日本語担当者会を開き、授業や放課後の平常補習・日本語能力試験受験者のための対策講座等についても打ち合わせをした。日本語教育推進委員会を開き、日本語支援が必要な生徒の学年団・教科担当・外国語講師と情報交換・共通理解を図った。 「文型・文法・語彙・トピック項目」及び、「構成・書式・登場人物等」を協議し、「日本語オリジナルテキスト」の各担当部分の SCRIPT・新出語彙・タスク等の作成を各担当で進めた。当研究グループ構成員内で1課分ずつ原稿作成の責任分担部分の候補を決めた。
6月	上旬、テキストに必要な文法項目全24課のうち、『第3集』は残りの19課～24課部分と語彙リストを作成することに決めた。表紙及び例文のイラストの作成を、分量・用途も考慮したうえで、外部講師に依頼することに決めた。文化祭第1日目の夕方、イラスト担当者も交えて、『第3集』について打ち合わせ、1課ずつ担当者も決定。併せて、下旬までに、SCRIPTや設定場面を各担当者が考えて持ち寄ることとした。
7月	下旬、本年度の全職員対象の第1回校内日本語研修会を実施した。内容は、日本語担当によるJSLカリキュラムをふまえたテスト問題の質問形式を、過去問を叩き台にグループに分かれて分析・発表するもので、日本語指導だけでなく、教科別の学習支援・指導に役立てられるように工夫した。研修会終了後、イラスト担当者と登場人物、イラスト枚数、全体のイメージについて協議した。
8月	上旬に、毎日2時間ずつオリジナルテキスト作成のための検討会を開いて、各SCRIPTの雛形を作り、フォーム・フォント・ポイント等も統一し、さらに、夏季休業中に調べておくべきことについても検討を重ねた。
9月	19課に関して計6回の検討会を開いた。また、下旬にイラストの依頼者と登場人物や表紙のイラストについて、本格的な打ち合わせをし、持参してもらい、さらに一部修正して持参してもらった。登場人物のイメージ、必要箇所等について再度、協議・検討した。帰国生徒に対する日本語指導の先進校である京都教育大学附属桃山中学校との連携・情報交換のために出向き、併せて同校の学校行事である帰国生徒のスピーチコンテストを参観した。
10月	上旬、19課の7～9回目の検討会を開いて19課の原稿を完成させ、依頼者に同課のイラスト作成を依頼した。20課を検討し、原稿を完成させた。
11月	上旬に20課のイラストを依頼し、21課の検討に入った。21課を完成させイラストを依頼した。22課の検討に入り2回目の検討をした。
12月	上旬に22課の3・4回目の検討をし、各2時間ずつ費やして、22課の原稿を仕上げた。一部訂正をしたうえで下旬には22課のイラストを依頼した。 なお、23課の原稿は年明けに、24課は2月上旬に完成させるべく、取り組んでいる。